

教材教具名 音の出る水ペン	教科 (国語・数学)
------------------	-----------------

教材教具写真



・音の出る水ペンと、専用のシート

・水ペンで描いた線は、乾くと消える。

・シートの突起にペンの背面を押しつけると、音色が変わる。

教材教具の概略（ねらいと使い方） ※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

1 ねらい

○道具の使い方を理解し、手元を見ながら操作することができるようになる。

2 発達段階

○「発達段階別指導内容表 国語科」のⅡ期 模倣・指さしを獲得する時期

この教材を使って学習していた生徒は、情報処理の特性として、聴覚での認知が優位であり、視覚での認知は興味があるもの（好きな人やおもちゃ、食べ物）に対してのみ活用していた。音に対しては非常に敏感であり、楽器などは興味をもって扱うことができていたが、手に持って音を出せる状態になると、目では見ず、耳を近づけて音を楽しんでいる状態だった。そこで、音が出る水ペン（「リトミックおえかき」という品名で、おもちゃ屋などで販売されている）を使用し、目と手の協応を主なねらいとして学習に取り組んだ。

3 使い方

○ペン軸の中に水ペンを入れてセットし、専用のシートの上にペン先を押しつけながら点や線を描くと、いろいろな音が出る。（音はシートの各所についている突起にペン軸の背面を押しつけることによって設定できる）水ペンの中身は普通の水道水で、時間が経って乾くとシートに描いた点や線は消える。

①教具がどのようなものか生徒が理解するまで、教師が後ろから手を支えて正しい持ち方、使用方法を教える。

②生徒が教具の使用法を理解したら、はじめに持つところだけ補助をし、その後は生徒に自由に操作をさせる。生徒の様子を見ながら、必要に応じて支援を行う。
（ペン先をシートに押しつけないと音が出ないことに気づかせる）

③机上にペンを置いた状態からはじめる。

（生徒が自分でペンを拾い上げ、正しい持ち方ができるよう言葉かけをする）

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等（次に利用する方のために）

車の音やドレミファソラシドの音階など、さまざまな音を出すことができるので、生徒が飽きることなく使用し続けることができた。また、正しい角度で持たなければ音が出ないことで、生徒の意識が手元に向き、どのような持ち方をすれば音が出るかを考えながら、手元をよく見て活動しようとしている姿が見られるようになった。

今回の生徒については学習の内容には取り入れなかったが、シートの各所にある突起に正確にペンの背面を押しつけ、音色を変える学習や、シートに薄く描かれている線やイラストをなぞる学習など児童生徒の実態に合わせて、さまざまな活用が考えられると思う。